

新型コロナウイルス感染後の味覚障害・嗅覚障害に対して漢方薬処方・鍼灸治療を行った症例報告

○ 椋梨兼彰¹⁾, 矢嶋千佳子²⁾, 齊藤光絵³⁾, 土田眞美⁴⁾, 相澤玲子⁵⁾

¹⁾ むくなし歯科医院, ²⁾ やじまちかこ鍼灸院, ³⁾ みつえ歯科医院
⁴⁾ 眞美デンタルオフィス, ⁵⁾ れいな歯科

【目的】

2019年末より新型コロナウイルス感染症が流行し、瞬く間にパンデミック状態になったのは記憶に新しい。日本国内でも初感染から4年が経ち2023年5月には5類移行されて1年を過ぎるが、現在でも感染者は多く現在「第11波」を迎え厚労省が注意を呼び掛けている。罹患後症状（いわゆる後遺症）に悩まされている患者も多く、代表的なものには疲労感・倦怠感等様々な症状があり、口腔領域では味覚障害・嗅覚障害等が多く見られる。今回、罹患後症状が6か月を過ぎても消失しない患者に対して漢方薬処方・鍼灸治療等の東洋医学的治療を行って良好な経過を得た症例を経験したので報告する。

【症例1】

60歳代男性。主訴：新型コロナウイルス感染後の味覚障害・嗅覚障害

X年2月新型コロナウイルス感染。かかりつけ医で罹患後症状と診断処置を行うが症状改善見られず同年10月当医院来院。鍼灸治療（迎香，上迎香，廉泉），漢方薬（補中益気湯）の東洋医学的治療を始めた。治療開始直後から唾液量増加が認められ2か月後、味覚・嗅覚障害も問診により徐々に改善がみられた。

【症例2】

70歳代女性。主訴：新型コロナウイルス感染後の口腔乾燥・味覚障害

X年7月新型コロナウイルス感染。療養後当医院来院。軽度の味覚障害訴えたが治療希望なし経過観察。半年後、倦怠感出現し味覚障害進み嗅覚障害も感じ始めたので患者の希望により鍼灸治療（迎香，上迎香，廉泉），漢方薬（補中益気湯，六君子湯）治療を始めた。

治療開始後、唾液量増加が認められ、3か月後、問診により嗅覚から徐々に戻り始め6か月後には少しではあるが味覚障害も問診により徐々に改善が見られた。

【考察および結論】

本症例の様な新型コロナウイルス感染後6か月以上罹患後症状が消失しない患者に対し漢方薬処方・鍼灸治療を行ったことにより唾液量増に伴い数か月後には味覚・嗅覚障害の改善がみられる結果になった。新型コロナウイルス感染後の味覚・嗅覚障害に対して漢方薬処方・鍼灸治療等の東洋医学的治療が有効であると考えられた。